

令和元年5月31日
地震火山部

「南海トラフ地震臨時情報」等の提供開始について

気象庁では、中央防災会議での「南海トラフ地震防災対策推進基本計画」の変更を踏まえ、本日（31日）15時より「南海トラフ地震臨時情報」及び「南海トラフ地震関連解説情報」の提供を開始します。

本日（31日）開催された中央防災会議において、南海トラフ地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法に基づく「南海トラフ地震防災対策推進基本計画」が変更され、南海トラフ沿いでマグニチュード8クラスの地震が発生した場合等、南海トラフ地震の発生可能性が平常時と比べて相対的に高まったと評価された場合の国や地方公共団体、企業等の防災対応が定められました。

国や地方公共団体、企業等が、この基本計画に基づく防災対応をとりやすくするため、気象庁では、従前の「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」及び「南海トラフ地震に関連する情報（定例）」に替わり、「南海トラフ地震臨時情報」及び「南海トラフ地震関連解説情報」の情報発表を、本日（31日）15時より開始します。（これら情報の内容は、本年3月29日の報道発表でお知らせしたものです）

このうち、「南海トラフ地震臨時情報」については、情報の受け手が防災対応をイメージし適切に実施できるよう、「巨大地震警戒」等の防災対応等を示すキーワードを情報名に付記します。情報発表条件やキーワードを付記する条件は別紙1、発表情報例と情報発表までの流れは別紙2のとおりです。

なお、内閣府（防災担当）から公表されている「南海トラフ地震の多様な発生形態に備えた防災対応検討ガイドライン（第1版）」には、地方公共団体や企業等における防災対応の基本的な考え方や検討手順等が示されています。

【参考】南海トラフ地震対策（内閣府 HP）

<http://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/index.html>

※「南海トラフ地震防災対策推進基本計画」や「南海トラフ地震の多様な発生形態に備えた防災対応検討ガイドライン（第1版）」が掲載されています

問合せ先：地震火山部 地震予知情報課 宮岡、竹中、岩村
電話 03-3212-8341（内線 4566） FAX 03-3212-2807

南海トラフ地震に関する情報について

○「南海トラフ地震に関連する情報」の名称及び発表条件

「南海トラフ地震に関連する情報」は、以下の2種類の情報名で発表します

情報名	情報発表条件
南海トラフ地震臨時情報	<p>○南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合</p> <p>○観測された異常な現象の調査結果を発表する場合</p>
南海トラフ地震関連解説情報	<p>○観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況の推移等を発表する場合</p> <p>○「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合（ただし南海トラフ地震臨時情報を発表する場合を除く）</p> <p>※すでに必要な防災対応がとられている際は、調査を開始した旨や調査結果を南海トラフ地震関連解説情報で発表する場合があります</p>

○「南海トラフ地震臨時情報」に付記するキーワードと各キーワードを付記する条件
 情報名の後にキーワードを付記して「南海トラフ地震臨時情報（調査中）」等の形で
 情報発表します

キーワード	各キーワードを付記する条件
調査中	<p>下記のいずれかにより臨時に「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催する場合</p> <p>○監視領域内^{※1}でマグニチュード6.8以上^{※2}の地震^{※3}が発生</p> <p>○1カ所以上のひずみ計での有意な変化と共に、他の複数の観測点でもそれに関係すると思われる変化が観測され、想定震源域内のプレート境界で通常と異なるゆっくりすべりが発生している可能性がある場合など、ひずみ計で南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる変化を観測</p> <p>○その他、想定震源域内のプレート境界の固着状態の変化を示す可能性のある現象が観測される等、南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる現象を観測</p>

巨大地震警戒	○想定震源域内のプレート境界において、モーメントマグニチュード ^{※4} 8.0以上の地震が発生したと評価した場合
巨大地震注意	○監視領域内 ^{※1} において、モーメントマグニチュード ^{※4} 7.0以上の地震 ^{※3} が発生したと評価した場合（巨大地震警戒に該当する場合は除く） ○想定震源域内のプレート境界において、通常と異なるゆっくりすべりが発生したと評価した場合
調査終了	○（巨大地震警戒）、（巨大地震注意）のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合

- ※1 南海トラフの想定震源域及び想定震源域の海溝軸外側50km程度までの範囲（下図参照）
- ※2 モーメントマグニチュード7.0の地震をもれなく把握するために、マグニチュードの推定誤差を見込み、地震発生直後の速報的に求めた気象庁マグニチュードでM6.8以上の地震から調査を開始する
- ※3 太平洋プレートの沈み込みに伴う震源が深い地震は除く
- ※4 断層のずれの規模（ずれ動いた部分の面積×ずれた量×岩石の硬さ）をもとにして計算したマグニチュード。従来の地震波の最大振幅から求めるマグニチュードに比べて、巨大地震に対しても、その規模を正しく表せる特徴を持っている。ただし、モーメントマグニチュードを求めるには詳細な解析が必要で、その値が得られるまで若干時間を要する。そのため、気象庁が地震発生直後に発表する津波警報等や地震情報には、地震波の最大振幅から求められる気象庁マグニチュードを用いている。



○今後の情報発表方法について

今後、十分な準備期間を設けた後、自動処理がしやすいように新たな電文による情報発表を実施する予定です。

地震の発生にともない発表する場合

令和〇年〇月〇日
気象庁地震火山部

南海トラフ地震臨時情報（調査中）

**** 見出し ****

本日（〇日）〇時〇分頃に〇〇〇〇〇〇を震源とするM〇. 〇（速報値）の地震が発生しました。気象庁では、今回発生した地震と南海トラフ地震との関連性についての調査を開始しました。

南海トラフ地震で被害が想定される地域の方は、個々の状況に応じて、身の安全を守る行動を取ってください。

**** 本文 ****

本日（〇日）〇時〇分頃に〇〇〇〇〇〇を震源とするM〇. 〇（速報値）の地震が発生しました。

気象庁では、今回発生した地震と南海トラフ地震との関連性についての調査を開始しました。このため、〇時〇分から南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会を開催します。

次の「南海トラフ地震臨時情報」は、〇時頃に発表します。南海トラフ地震で被害が想定される地域の方は、個々の状況に応じて、身の安全を守る行動を取ってください。

※評価検討会は、従来の東海地域を対象とした地震防災対策強化地域判定会と一体となって検討を行っています。

ひずみ計の変化にともない発表する場合

令和〇年〇月〇日
気象庁地震火山部

南海トラフ地震臨時情報（調査中）

**** 見出し ****

〇〇地域のひずみ観測点で有意な変化を観測しており、変化が大きくなっています。気象庁では、観測されている現象と南海トラフ地震との関連性について調査を開始しました。

南海トラフ地震で被害が想定される地域の方は、今後の情報に注意してください。

**** 本文 ****

〇〇地域のひずみ観測点で有意な変化を観測しており、変化が大きくなっています。

気象庁では、観測されている現象と南海トラフ地震との関連性について調査を開始しました。このため、〇時〇分から南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会を開催します。

次の「南海トラフ地震臨時情報」は、〇時頃に発表します。南海トラフ地震で被害が想定される地域の方は、今後の情報に注意してください。

<変化を観測したひずみ観測点>

以下の観測点で有意な変化を観測しています。

〇〇〇〇（ふりがな） 〇日〇時〇分頃から

また、以下の観測点で若干の変化を観測しています。

〇〇〇〇（ふりがな）

〇〇〇〇（ふりがな）

なお、南海トラフ沿いの地域の地震活動には特段の変化は見られません。

※南海トラフ地震に関する今後の気象庁からの情報は、テレビ・ラジオ・気象庁ホームページ・気象庁ツイッター公式アカウント等でも知ることができます。

※評価検討会は、従来の東海地域を対象とした地震防災対策強化地域判定会と一体となって検討を行っています。

南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）のイメージ

令和〇年〇月〇日
気象庁地震火山部

南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）

**** 見出し ****
 本日（〇日）〇時〇分頃に〇〇〇〇〇〇を震源とするM〇. 〇の地震が発生しました。この地震と南海トラフ地震との関連性について検討した結果、この地震は南海トラフ地震の想定震源域のプレート境界のうち、〇〇〇〇〇〇から〇〇〇〇〇〇にかけての領域で発生したモーメントマグニチュード〇. 〇の地震と評価されました。
 南海トラフ地震の想定震源域では、大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。世界の事例ではM8. 0以上の地震発生後に隣接領域で、M8クラス以上の地震が7日以内に発生する頻度は数百回に1回程度となります。今後の政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください。

**** 本文 ****
 本日（〇日）〇時〇分に、〇〇〇〇〇〇を震源とするM〇. 〇の地震が発生しました。その後の地震活動は活発な状態が続いています。また、〇〇地域のひずみ観測点では、M〇. 〇の地震に伴う変化（とそれに引き続くゆっくりとした変化）が観測されています。

気象庁では、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会を臨時に開催し、この地震と南海トラフ地震との関連性について検討しました。

この地震は、〇〇・〇〇方向に圧力軸をもつ逆断層型で、震度分布やその後の地震活動の広がりから、南海トラフ地震の想定震源域のうち、〇〇〇〇〇〇から〇〇〇〇〇〇にかけての領域で、陸のプレートとフィリピン海プレートの境界がずれ動いたことにより発生したモーメントマグニチュード〇. 〇の地震と評価されました。

（中略）
 また、過去の世界の大規模地震の統計データでは、1904年以降に発生したM8. 0以上の大規模地震103事例のうち、その後隣接領域でM8クラス以上の地震が発生した事例は、最初の大規模地震の発生から3日以内に6事例、4日から7日以内に1事例あり、その後の発生頻度は時間とともに減少します。世界の事例ではM8. 0以上の地震発生後に隣接領域で、M8クラス以上の地震が7日以内に発生する頻度は数十回に1回程度となります。

これらのことから、今回の地震の震源域とならなかった〇〇〇〇〇〇から〇〇〇〇〇〇の領域を含む、南海トラフ地震の想定震源域では、大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。

（中略）
 今後の政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください。

気象庁では、引き続き注意深く南海トラフ沿いの地殻活動の推移を監視します。

今後は、「南海トラフ地震関連解説情報」で地殻活動の状況等を発表します。次回の情報発表は、〇時頃を予定しています。なお、新たな変化を観測した場合には随時発表します。

※モーメントマグニチュードは、震源断層のずれの規模を精査して得られるマグニチュードです。気象庁が地震情報等で、お知らせしているマグニチュード（M）とは異なる値になる場合があります。※評価検討会は、従来の東海地域を対象とした地震防災対策強化地域判定会と一体となって検討を行っています。

南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）のイメージ

令和〇年〇月〇日
気象庁地震火山部

南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）

**** 見出し ****
 本日（〇日）〇時〇分頃に〇〇〇〇〇〇を震源とするM〇. 〇の地震が発生しました。この地震と南海トラフ地震との関連性について検討した結果、この地震は南海トラフ地震の想定震源域内におけるプレート境界の一部がずれ動いたことにより発生したモーメントマグニチュード〇. 〇の地震と評価されました。この地震の発生により、南海トラフ地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。世界の事例ではM7. 0以上の地震発生後に同じ領域で、M8クラス以上の地震が7日以内に発生する頻度は数百回に1回程度となります。今後の政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください。

**** 本文 ****
 本日（〇日）〇時〇分に、〇〇〇〇〇〇を震源とするM〇. 〇の地震が発生しました。その後の地震活動は活発な状態が続いています。また、〇〇地域のひずみ観測点では、M〇. 〇の地震に伴う変化とそれに引き続くゆっくりとした変化が観測されています。

気象庁では、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会を臨時に開催し、この地震と南海トラフ地震との関連性について検討しました。

この地震は、〇〇・〇〇方向に圧力軸をもつ逆断層型で、南海トラフ地震の想定震源域内における陸のプレートとフィリピン海プレートの境界の一部がずれ動いたことにより発生したモーメントマグニチュード〇. 〇の地震と評価されました。

過去の世界の大規模地震の統計データでは、1904年以降に発生したM7. 0以上の地震1, 437事例のうち、その後同じ領域でM8クラス以上の地震が発生した事例は、最初の大規模地震の発生から7日以内に6事例であり、その後の発生頻度は時間とともに減少します。このデータには、平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震（M9. 0）が発生した2日前に、M7クラスの地震が発生していた事例が含まれます。世界の事例ではM7. 0以上の地震発生後に同じ領域で、M8クラス以上の地震が7日以内に発生する頻度は数百回に1回程度となります。

これらのことから、南海トラフ地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。

（中略）
 今後の政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください。

気象庁では、引き続き注意深く南海トラフ沿いの地殻活動の推移を監視します。

今後は、「南海トラフ地震関連解説情報」で地殻活動の状況等を発表します。次回の情報発表は、〇時頃を予定しています。なお、新たな変化を観測した場合には随時発表します。

※モーメントマグニチュードは、震源断層のずれの規模を精査して得られるマグニチュードです。気象庁が地震情報等で、お知らせしているマグニチュード（M）とは異なる値になる場合があります。※評価検討会は、従来の東海地域を対象とした地震防災対策強化地域判定会と一体となって検討を行っています。

地震の発生にともない調査を行った場合

令和〇年〇月〇日
気象庁地震火山部

南海トラフ地震臨時情報（調査終了）

** 見出し **

本日（〇日）〇時〇分頃に〇〇〇〇〇〇を震源とするM〇.〇の地震が発生しました。この地震と南海トラフ地震との関連性について検討した結果、今回の地震の規模はモーメントマグニチュード〇.〇と評価されました。

モーメントマグニチュード7.0に満たないことから、南海トラフ地震防災対策推進基本計画で示されたいずれの条件にも該当せず、現在のところ、南海トラフ地震の発生可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる現象ではありませんでした。

ただし、いつ地震が発生してもおかしくないことに留意し、突発地震に備えて、日頃から地震への備えを確実に実施しておくことが重要です。気象庁では、引き続き注意深く南海トラフ沿いの地殻活動の推移を監視します。

** 本文 **

本日（〇日）〇時〇分に、〇〇〇〇〇〇を震源とするM〇.〇の地震が発生しました。その後の地震活動は活発な状態が続いています。

気象庁では、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会を臨時に開催し、この地震と南海トラフ地震との関連性について検討しました。

この地震は、〇〇・〇〇方向に圧力軸をもつ逆断層型で、南海トラフ地震の想定震源域内における陸のプレートとフィリピン海プレートの境界の一部がずれ動いたことにより発生したモーメントマグニチュード〇.〇の地震と評価されました。モーメントマグニチュード7.0に満たないことから、南海トラフ地震防災対策推進基本計画で示されたいずれの条件にも該当せず、現在のところ、南海トラフ地震の発生可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる現象ではありませんでした。

ただし、南海トラフ沿いの大規模地震（M8からM9クラス）は、「平常時」においても今後30年以内に発生する確率が70から80%であり、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から既に70年以上が経過していることから切迫性の高い状態です。このため、いつ地震が発生してもおかしくないことに留意し、日頃から地震への備えを確実に実施しておくことが重要です。

気象庁では、引き続き注意深く南海トラフ沿いの地殻活動の推移を監視します。新たな変化を観測した場合には随時評価検討会を開催し、情報発表します。

※モーメントマグニチュードは、震源断層のずれの規模を精査して得られるマグニチュードです。気象庁が地震情報等で、お知らせしているマグニチュード（M）とは異なる値になる場合があります。

※評価検討会は、従来の東海地域を対象とした地震防災対策強化地域判定会と一体となって検討を行っています。

南海トラフ地震関連解説情報のイメージ

観測された異常な現象の調査結果を公表した後の
状況等を発表する場合

令和〇年〇月〇日
気象庁地震火山部

南海トラフ地震関連解説情報（第〇報）

この場合のみ情報
番号を付します

** 見出し **

昨日（〇日）〇時〇分頃に〇〇〇〇〇〇を震源とするM〇. 〇（モーメントマグニチュード〇. 〇）の地震が発生しました。その後も地震活動は活発な状態が続いています。

この地震と南海トラフ地震との関連性について検討した結果、この地震は南海トラフ地震の想定震源域のプレート境界のうち、〇〇〇〇〇〇から〇〇〇〇〇〇にかけての領域で発生したものと考えられます。

政府では、南海トラフ地震防災対策推進地域に対して〇月〇日〇時まで警戒（注意）する措置をとるよう呼びかけています。引き続き、政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください。

** 本文 **

昨日（〇日）〇時〇分に、〇〇〇〇〇〇を震源とするM〇. 〇（モーメントマグニチュード〇. 〇）の地震が発生しました。その後も地震活動は活発な状態が続いています。

昨日（〇日）〇時から本日（〇日）〇時までには南海トラフ地震の想定震源域で発生したM〇. 〇以上（暫定値）の地震回数は次の通りです。

〇日〇時から〇時まで 〇回

〇日〇時から〇時まで 〇回

〇日〇時から〇時まで 〇回

また、〇〇地域のひずみ観測点では、M〇. 〇の地震に伴う変化（とそれに引き続きゆっくりとした変化）が観測されています。

政府では、南海トラフ地震防災対策推進地域に対して〇月〇日〇時まで警戒（注意）する措置をとるよう呼びかけ等しています。引き続き、政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください。

気象庁では、引き続き注意深く南海トラフ沿いの地殻活動の推移を監視します。

今後も、「南海トラフ地震関連解説情報」で地殻活動の状況等を発表します。次回の情報発表は、〇日〇時頃を予定しています。

なお、新たな変化を観測した場合には随時発表します。

※モーメントマグニチュードは、震源断層のずれの規模を精査して得られるマグニチュードです。気象庁が地震情報等で、お知らせしているマグニチュード（M）とは異なる値になる場合があります。

「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の
定例会合における調査結果を発表する場合

令和〇年〇月〇日
気象庁地震火山部

南海トラフ地震関連解説情報

本日（〇月〇日）開催した第〇回南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、第〇回地震防災対策強化地域判定会で評価した、南海トラフ周辺の地殻活動の調査結果は以下のとおりです。

現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時（注）と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

（注）南海トラフ沿いの大規模地震（M8からM9クラス）は、「平常時」においても今後30年以内に発生する確率が70から80%であり、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から既に70年以上が経過していることから切迫性の高い状態です。

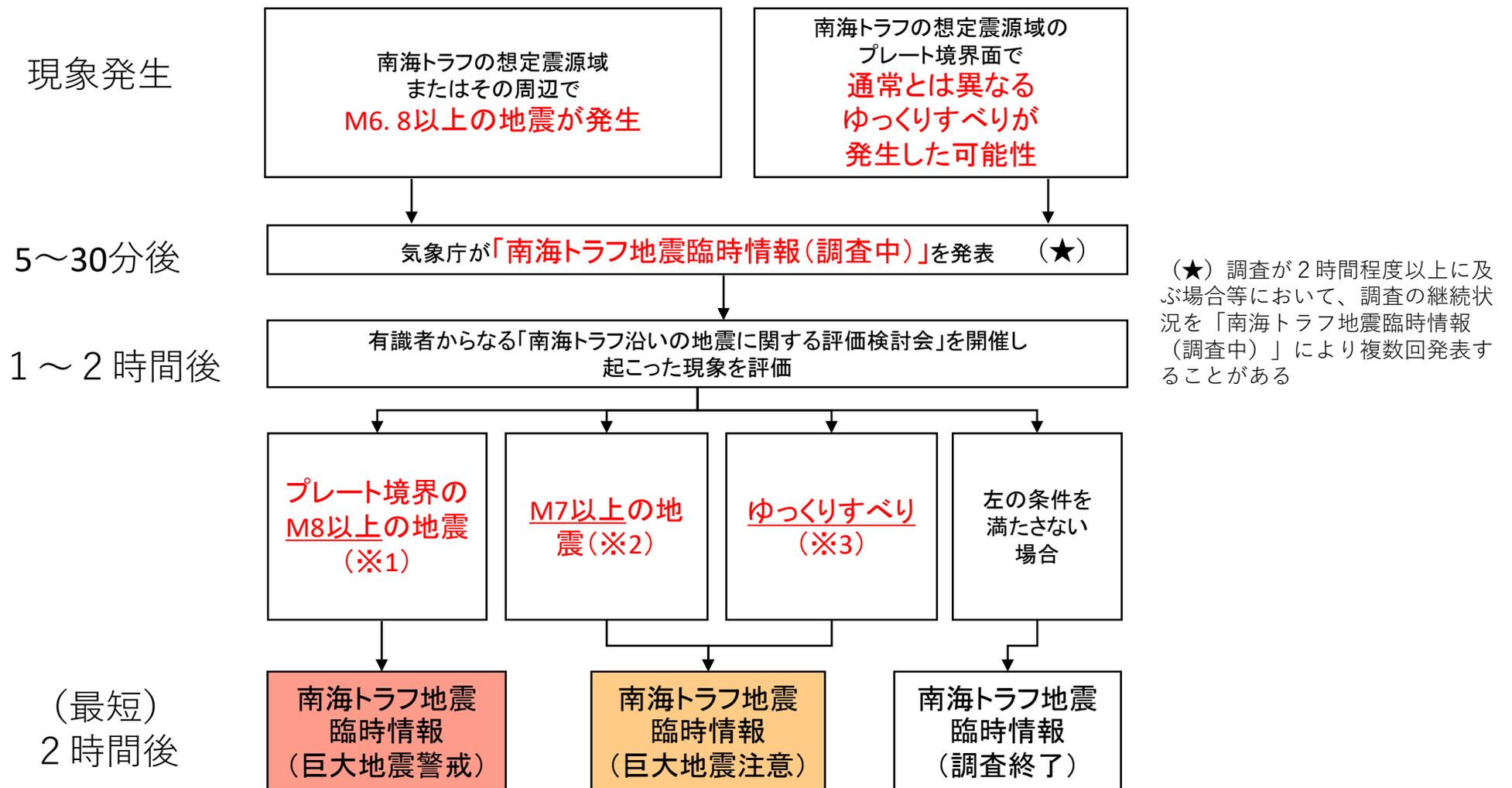
1. 地震の観測状況
（中略）

2. 地殻変動の観測状況
（中略）

3. 地殻活動の評価
（中略）

上記観測結果を総合的に判断すると、南海トラフ地震の想定震源域ではプレート境界の固着状況に特段の変化を示すようなデータは今のところ得られておらず、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていないと考えられます。

南海トラフ地震臨時情報の情報発表までの流れ



※内閣府「南海トラフ地震の多様な発生形態に備えた防災対応検討ガイドライン【第1版】」の図に加筆・修正

- ※1 南海トラフの想定震源域内のプレート境界においてM8.0以上の地震が発生した場合(半割れケース)
- ※2 南海トラフの想定震源域内のプレート境界においてM7.0以上、M8.0未満の地震が発生した場合、または南海トラフの想定震源域内のプレート境界以外や想定震源域の海溝軸外側50km程度までの範囲でM7.0以上の地震が発生した場合(一部割れケース)
- ※3 ひずみ計等で有意な変化として捉えられる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合(ゆっくりすべりケース)